

 <h1>福山平成大学</h1> <h2>FDニューズレター No.8</h2> 	発行: 福山平成大学 FD推進委員会 〒720-0001 広島県福山市御幸町 上岩成正戸 117-1 084(972)5001(代) fd@heisei-u.ac.jp
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 目 次

### 第7回「私の授業発表会」

1. 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ ～安心して「外」に送り出すための指導～(伊藤泰三) --	1
2. 介護実習指導Ⅰ ～学生の認知に合わせた授業展開と指導方法～(藤井宏明) -----	3
平成23年度後期 学生による授業アンケート調査結果-----	5
平成23年度FD研修会報告「大学教育の質を向上させるためのFDの進め方と実際」-----	9
平成23年度FD講習会報告「統計講座」-----	9
FD関連図書コーナー新着案内-----	10
平成23年度FD推進委員会活動記録-----	11

## 第7回「私の授業発表会」

平成24年3月9日に、今年度の「私の授業発表会」が大会議室で開催されました。今回は、福祉健康学部 福祉学科の社会福祉コースと介護福祉コースの2名の先生による、それぞれのコースでの実習指導に関する授業について、ご自身の授業での工夫や、相手の授業の観察結果の紹介などの発表があり、大変充実した内容でした。発表後には熱心な質疑応答もあり、有意義な発表会になりました。

### 発表その1

## 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ

### ～安心して「外」に送り出すための指導～

福祉健康学部 福祉学科 講師

伊藤 泰三

### 1. 授業概要

本講義は福祉学科社会福祉コースの2年次前期に担当されている科目である。社会福祉士とは専門的知識及び技術をもって、身体上若しくは精神上の障害があること又は環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある者の福祉に関する相談に応じ他の専門職と連携して支援を行うことを業とする者であり、資格取得をするためには指定科目を履修し、180時間の現場実習を行い、国家試験に合格する必要がある。本講では、180時間の現場実習に行く際に必要な価値、知識、技術、マナー等を教えることを目的としている。特に力を入れている点として、学生が大学から他の実習施設に安心して行かせることが出来るための指導について力を入れている。



## 2. 当該授業での工夫

授業では学生像について、ごく初歩的などころからの意識、マナーの丁寧な指導が不可欠である、との認識を基に指導を行っている。その際のポイントとして、①見本を見せて反復練習を行い、個人票や実習記録等が作れるように繰り返し指導を行う。また、教材として文字だけの教材では理解が難しい学生もいることから、漫画やイラスト、学生同士のロールプレイなどの手法を使って講義を行う事、②チェックリスト等を活用し、講義における様々な目標の中で、現時点で自分はどこまで到達できたのかを確認が出来るようにする事、③授業時間内外で個別指導を行い、多様な実習施設に応じた必要な知識の教授や学習効果が上がりにくい学生に対しては「何につまずいているのか」を把握し指導を行うこと、また、時には資格取得に関わるモチベーションの確認などを行っている事、等について工夫を行っている。

## 3. 当該授業の課題

授業の課題として、学生が実習に出た際に利用者や職員としっかり関われないことによる実習中止や不可の評価を得ることがあり、なるべくそのような評価を受けることが無いような指導を行っていく点が課題である。特に悩ましいのが講義は比較的しっかり出席しており、成績もそれなり、にもかかわらず他人と関わることに困難を感じている学生であり、大きな課題である。上記の課題については社会福祉援助技術演習でのコミュニケーションの指導や学科会議での情報交換を行うことにより取り組みを進めているが、今後も検討していきたい課題となっている。

### 観察者コメント

## 伊藤先生の授業を拝見して

### ～学生の学習課題と就職を個別に意識～

福祉健康学部 福祉学科 講師

藤井 宏明

伊藤先生による「社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ」の授業観察をさせていただいた。本授業は、社会福祉士国家試験受験資格に関わる重要な科目である。社会福祉士は、介護福祉士と共に「社会福祉士および介護福祉士法」を法的根拠とする国家資格である。一般にソーシャルワーカーと呼ばれる職種であり、多様な家族問題、地域問題、社会構造上の問題などを原因とした生活障害を持った人への支援に欠かせない人材として注目されている。そのような社会福祉士教育に不可欠な現場実習の事前・事後指導が本講の重要な位置づけであった。

しかしながら伊藤先生の指摘にあるように、社会福祉士の基本的素質に課題を持つ学生が多いことが問題として考えられる。その解決手段にコミュニケーション能力不足の学生への対処方法を伊藤先生はあげられていた。社会福祉士に必要な人的ネットワーク構築に必要な基礎として、社会的技能が考えられる。伊藤先生は学生の持つ社会的技能を「当たり前で修得している」と考えず、ロールプレイによる場面練習、視覚的教材を使ったモデル学習を駆使してゼロからの



教育に取り組んでいた。この伊藤先生の取り組みは、教材研究の可能性を大きく開いている側面もあるように思われた。従前のテキストによる学習だけでなく、イラストやフローチャート形式によってイメージ作りおよび手順の可視化によって理解力を伸ばす学生がいると思われる。

また、「社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ」における個別指導は、個々の学習課題だけでなく就職相談の側面があることがメッセージとして強く伝わった。社会福祉士の活躍の場が多様であるがゆえに、学生の将来への展望も個々人で大きく異なることが予想される。それら、将来への展望とマッチングした実習教育を行うことがモチベーションの向上に役立っていることが分かった。また、実際に実習によって就職活動の強化がなされ、就職として結実するケースがあることも紹介されていた。このような就職活動とのリンクも実習教育の車の両輪であると新たに意識させられた。

## 発表その2

# 介護実習指導Ⅰ

## ～学生の認知に合わせた授業展開と指導方法～

福祉健康学部 福祉学科 講師

藤井 宏明

### 1. 授業概要

本講「介護実習指導Ⅰ」は福祉学科介護福祉コース1年次前期に配当されている科目である(15コマ)。介護福祉士国家試験受験資格に必要な介護実習(450時間以上)を行うためには、この授業が必須となる。介護福祉士とは「社会福祉士および介護福祉士法」を法的根拠に持つ国家資格であり、介護福祉の専門職として活躍する職種である。

この「介護実習指導Ⅰ」の特徴は前述した通り、1年次前期に開講されることである。そのため、入学当初の学生に対し、適切な学習環境を整備するためのアセスメントが重要となる。本学に限らず、大学生の基礎学力不足は大学教育の大きな課題である。そのような学生の学習上、あるいは実習上の課題を明らかにし、実習成果を上げることができるように実習指導を行わねばならない。



### 2. 当該授業の工夫

当該授業における工夫の一つに、学生の認知特性に配慮した情報伝達があげられる。学生の中には聴覚指示や集団指導では情報がうまく伝わらない者が含まれるようになった。そこで、視覚的情報を基本にして情報伝達を行うように心がけている。文字情報(テキスト)だけでは概念化が困難でも、視覚情報(特に映像教材)を併用することによって学習の助けとなる学生も多い。

また、基礎学習能力の中でも文章表現能力に課題を持つ学生も多い。文章表現能力は実習日誌を記録する上で重要な能力となる。そこで、実習に入る前から実習日誌の記述トレーニングに入る。具体的生活体験を記述素材にしてトレーニングをするのが妥当な方法であると思われる。そこで、学生に生活体験をもとに実習日誌を記述させる。そこで明らかとなる文章表現の問題を個別指導にて修正をしていく。学生にとって、①日本語の基本文法、②主体と客体の関係性、③文脈の構成、④段落の構成は、普段意識されないことが多い。しかし、これらの指導を行うことで学生の思考プロセスの可視化に貢献することができる。この思考プロセスの可視化こそが、実習教育において指導や評価につながる重要な客観的素材となる。この作成技術を学ぶことが、学生の実習教育には不可欠となる。

### 3. 当該授業の課題

介護福祉士は、身体や精神に障害を持った者への適切な支援が要求される。そこには、障害の理解、支援方法の修得、関係者とのコミュニケーション能力など多様な能力が要求される。しかしながら教授方法を工夫しても、介護福祉士に必要な能力の修得に困難となる学生も見られはじめた。

個々の学生の学習障害となる側面を見つけ出し、これを回避する方法で学習環境を整備することを試みてきた。しかし、新たな課題や深刻な課題を持つ学生への対応に、今後さらに迫られると考えられる。

#### 観察者コメント

## 藤井先生の授業を拝見して

### ～確たる方法論に基づく緻密な指導～

福祉健康学部 福祉学科 講師

伊藤 泰三

藤井先生による「介護実習指導Ⅰ」の授業観察をさせていただいた。社会福祉士と介護福祉士の養成課程の違いとして、社会福祉は2年次から実習指導の講義が始まり、3年次に本実習が始まるのに対し、介護福祉士では実習が始まるのが1年次の夏休み、つまり入学して4ヶ月程度で実習に出す必要が発生するという大変な工夫・苦勞をされて講義を行っている事を実感した。

講義を行う上で大変参考になった点として、最初に、スケジュールの管理として実習に関わる基礎学力の養成の方法を挙げたい。先生の講義では映像教材を用いることにより学生が認知しやすい工夫を行っていることや実習記録の作成においてモデルを示し、実習に赴かせる前にまず学生自身に日々の生活記録を書かせ、修正させることで、学生自身が科学的な観点から実習を振り返ることが出来るような指導を行っていた。記録の指導については自身も行っていたものの、先生が行われているほどに緻密な教授を行えてはいなかった。今後社会福祉士の実習指導の参考にしていきたいと考えている。

次に参考になった点として、個々の学生の能力や特性、また学生間の人間関係について、基礎ゼミや他の講義の様子等から情報を集め、しっかりとしたアセスメントを行い、実習先の選定やグループ学習の組み合わせに活用されている点を挙げたい。報告会の発表でも強調されていたが、マッチングをうまく行うことにより、通常では到達目標に達することが難しい学生が、環境調整やグループダイナミクス

によりなんとか目標を達成していくための様々な工夫を拝見し、自身の授業にも取り入れていきたいと強く感じた。



時折、先生の研究室の前に実習日誌や各種書類を持った学生が個別指導の行列を作っているのを見かけます。本当に緻密で丁寧な指導をされているのだと感じ、自身の課題の多い学生指導を反省しています・・・

# 平成23年度後期 学生による授業アンケート調査結果

## 1. 調査概要

- ア. 実施期間：平成24年1月16日（月）～1月30日（月）
- イ. 対象科目：演習・実習等の科目を除く、全247科目（受講者数5名未満の科目は含まず）
- ウ. 実施科目数（実施率）：216科目（87.4%）
- エ. 実施方法：科目担当教員が、授業時間中にアンケート用紙の配布、回収を行う。
- オ. 質問項目（平成23年度前期・後期共通）：
- Q1. シラバス（授業概要）は、この授業の履修の決定や学習に役立った
  - Q2. 受講にあたって、学習到達目標や注意事項などの説明・指導は、適切だった
  - Q3. この授業の進度は、適切だった
  - Q4. 教員の話し方は、聞き取りやすかった
  - Q5. 板書や視聴覚機器は、見やすかった（聞きやすかった）
  - Q6. 教員の説明・指導は、わかりやすかった
  - Q7. 教室や実習・実技の環境・設備などは、適切だった
  - Q8. この授業は、有意義だった
  - Q9. この授業にきちんと出席した
  - Q10. 受講マナー（遅刻・早退、私語など）は守れた
  - Q11. 予習・復習・課題提出など、この授業に熱心に取り組んだ
- カ. 回答方法：上記の各問について「5.よくあてはまる～1.全くあてはまらない」の5段階評価。
- キ. その他：科目担当教員の自由設問及び、自由記述欄あり。

## 2. 大学全体の結果

### 2. 1 前回（平成23年度前期）の回答総数と平均値 （上段：回答数、下段：割合(%)）

	5. よくあてはまる	4. ややあてはまる	3. どちらでもない	2. あまりあてはまらない	1. 全くあてはまらない	未回答	平均値
Q1 シラバス	1,946 25.83	2,361 31.34	2,691 35.72	306 4.06	193 2.56	36 0.48	3.74
Q2 到達目標・注意事項の説明	2,275 30.20	2,720 36.11	2,067 27.44	302 4.01	131 1.74	38 0.50	3.89
Q3 授業の進度	2,505 33.25	2,714 36.04	1,777 23.59	355 4.96	136 1.81	46 0.61	3.95
Q4 教員の話し方	2,679 35.56	2,461 32.67	1,697 22.53	443 5.88	209 2.77	44 0.58	3.93
Q5 板書・視聴覚機器	2,542 33.74	2,396 31.81	1,769 23.48	520 6.90	261 3.46	45 0.60	3.86
Q6 教員の説明・指導	2,581 34.26	2,484 32.97	1,755 23.30	458 6.08	206 2.73	49 0.65	3.91
Q7 教室の環境・設備・機材	2,518 33.43	2,608 34.62	1,861 24.70	350 4.65	144 1.91	52 0.69	3.94
Q8 授業は有意義だった	2,665 35.38	2,375 31.53	1,837 24.39	363 4.82	208 2.76	85 1.13	3.93
Q9 出席態度	4,465 59.27	1,735 23.03	1,061 14.08	165 2.19	31 0.41	76 1.01	4.40
Q10 受講マナー	3,855 51.17	2,188 29.05	1,213 16.10	157 2.08	44 0.58	76 1.01	4.29
Q11 授業への取り組み	2,702 35.87	2,195 29.14	2,076 27.56	336 4.46	138 1.83	86 1.14	3.94

## 2. 2 今回（平成23年度後期）の回答総数と平均値（上段：回答数、下段：割合(%)）

	5. よくあてはまる	4. ややあてはまる	3. どちらでもない	2. あまりあてはまらない	1. 全くあてはまらない	未回答	平均値
Q1 シラバス	1,784 27.52	2,235 34.49	2,162 33.36	194 2.99	106 1.64	0 0.00	3.83
Q2 到達目標・注意事項の説明	2,088 32.22	2,455 37.88	1,687 26.03	185 2.85	64 0.99	2 0.03	3.98
Q3 授業の進度	2,292 35.36	2,340 36.11	1,528 23.58	250 3.86	67 1.03	4 0.06	4.01
Q4 教員の話し方	2,434 37.56	2,249 34.70	1,408 21.73	275 4.24	106 1.64	9 0.14	4.02
Q5 板書・視聴覚機器	2,284 35.24	2,211 34.12	1,552 23.95	308 4.75	123 1.90	3 0.05	3.96
Q6 教員の説明・指導	2,297 35.44	2,262 34.90	1,489 22.97	305 4.71	119 1.84	9 0.14	3.98
Q7 教室の環境・設備・機材	2,266 34.96	2,286 35.27	1,614 24.90	231 3.56	72 1.11	12 0.19	4.00
Q8 授業は有意義だった	2,397 38.99	2,147 33.13	1,572 24.26	232 3.58	108 1.67	25 0.39	4.01
Q9 出席態度	3,501 54.02	1,660 25.61	1,112 17.16	140 2.16	23 0.35	45 0.69	4.32
Q10 受講マナー	2,965 45.75	2,064 31.85	1,216 18.76	166 2.56	25 0.39	45 0.69	4.21
Q11 授業への取組み	2,366 36.51	2,008 30.98	1,729 26.68	246 3.80	80 1.23	52 0.80	3.99

## 3. 最近3年間の平均値の推移

	21年度		22年度		23年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
Q1 シラバス	3.80	3.92	3.74	3.86	3.74	3.83
Q2 到達目標・注意事項の説明	3.99	4.06	3.92	3.99	3.89	3.98
Q3 授業の進度	4.03	4.10	3.97	4.02	3.95	4.01
Q4 教員の話し方	4.03	4.10	3.96	4.01	3.93	4.02
Q5 板書・視聴覚機器	3.93	4.04	3.90	3.97	3.86	3.96
Q6 教員の説明・指導	3.97	4.07	3.92	3.98	3.91	3.98
Q7 教室の環境・設備・機材	4.04	4.11	3.96	4.02	3.94	4.00
Q8 授業は有意義だった	4.01	4.11	3.95	4.01	3.93	4.01
Q9 出席態度	4.46	4.41	4.46	4.38	4.40	4.32
Q10 受講マナー	4.33	4.28	4.31	4.24	4.29	4.21
Q11 授業への取組み	4.01	4.04	4.00	4.02	3.94	3.99

#### 4. 学年別の平均値の比較

	1年	2年	3年	4年	全体
Q1 シラバス	3.74	3.85	4.03	4.22	3.83
Q2 到達目標・注意事項の説明	3.88	3.97	4.20	4.47	3.98
Q3 授業の進度	3.93	3.98	4.26	4.49	4.01
Q4 教員の話し方	3.93	4.01	4.32	4.50	4.02
Q5 板書・視聴覚機器	3.86	3.95	4.24	4.45	3.96
Q6 教員の説明・指導	3.87	3.95	4.30	4.49	3.98
Q7 教室の環境・設備・機材	3.92	3.97	4.25	4.45	4.00
Q8 授業は有意義だった	3.90	4.00	4.29	4.41	4.01
Q9 出席態度	4.31	4.34	4.31	4.27	4.32
Q10 受講マナー	4.17	4.25	4.23	4.40	4.21
Q11 授業への取り組み	3.93	4.03	4.00	4.19	3.99

#### 5. 学科別の平均値

学部・学科	経営学部	福祉健康学部			看護学部
	経営・ 経営情報	福祉	こども	健康 スポーツ科	看護
Q1 シラバス	3.94	3.82	4.07	3.79	3.62
Q2 到達目標・注意事項の説明	4.13	4.05	4.20	3.89	3.75
Q3 授業の進度	4.15	4.12	4.22	3.93	3.79
Q4 教員の話し方	4.17	4.12	4.23	3.94	3.81
Q5 板書・視聴覚機器	4.09	4.04	4.18	3.89	3.74
Q6 教員の説明・指導	4.11	4.11	4.21	3.91	3.71
Q7 教室の環境・設備・機材	4.14	4.08	4.25	3.90	3.77
Q8 授業は有意義だった	4.12	4.13	4.25	3.94	3.76
Q9 出席態度	4.30	4.16	4.60	4.15	4.43
Q10 受講マナー	4.22	4.00	4.46	4.13	4.24
Q11 授業への取り組み	3.96	3.89	4.32	3.94	3.87

#### 6. 科目種類別の比較

	一般科目	専門科目	教職科目	全体
Q1 シラバス	3.75	3.86	3.89	3.83
Q2 到達目標・注意事項の説明	3.90	4.00	3.99	3.98
Q3 授業の進度	3.98	4.03	3.96	4.01
Q4 教員の話し方	3.96	4.05	3.93	4.02
Q5 板書・視聴覚機器	3.88	4.00	3.93	3.96
Q6 教員の説明・指導	3.92	4.00	3.91	3.98
Q7 教室の環境・設備・機材	3.91	4.03	3.99	4.00
Q8 授業は有意義だった	3.94	4.03	3.97	4.01
Q9 出席態度	4.22	4.35	4.41	4.32
Q10 受講マナー	4.13	4.24	4.25	4.21
Q11 授業への取り組み	3.90	4.01	4.04	3.99

## 7. 受講態度別の比較

### 7. 1 出席態度別の比較

Q9. きちんと出席した	5. よくあてはまる	4. ややあてはまる	3. どちらでもない	2.あまりあてはまらない	1.全くあてはまらない	全体
Q1 シラバス	4.06	3.78	3.28	3.20	3.22	3.83
Q2 到達目標・注意事項の説明	4.20	3.95	3.38	3.30	3.48	3.98
Q3 授業の進度	4.25	3.97	3.39	3.39	3.43	4.01
Q4 教員の話し方	4.26	3.99	3.39	3.39	3.43	4.02
Q5 板書・視聴覚機器	4.20	3.92	3.34	3.25	3.39	3.96
Q6 教員の説明・指導	4.21	3.93	3.37	3.39	3.22	3.98
Q7 教室の環境・設備・機材	4.25	3.92	3.37	3.41	3.35	4.00
Q8 授業は有意義だった	4.25	3.93	3.35	3.33	3.22	4.01
回答件数	3,501	1,660	1,112	140	23	6,436

### 7. 2 受講態度別の比較

Q10. 受講マナーは守れた	5. よくあてはまる	4. ややあてはまる	3. どちらでもない	2.あまりあてはまらない	1.全くあてはまらない	全体
Q1 シラバス	4.16	3.74	3.30	3.14	3.32	3.83
Q2 到達目標・注意事項の説明	4.30	3.90	3.40	3.26	3.36	3.98
Q3 授業の進度	4.34	3.93	3.42	3.42	3.72	4.01
Q4 教員の話し方	4.36	3.94	3.42	3.36	3.56	4.02
Q5 板書・視聴覚機器	4.30	3.88	3.35	3.31	3.32	3.96
Q6 教員の説明・指導	4.30	3.91	3.38	3.33	3.48	3.98
Q7 教室の環境・設備・機材	4.33	3.91	3.36	3.49	3.52	4.00
Q8 授業は有意義だった	4.34	3.91	3.37	3.35	3.04	4.01
回答件数	2,965	2,064	1,216	166	25	6,436

### 7. 3 勉学態度別の比較

Q11. 熱心に取り組んだ	5. よくあてはまる	4. ややあてはまる	3. どちらでもない	2.あまりあてはまらない	1.全くあてはまらない	全体
Q1 シラバス	4.29	3.81	3.34	3.35	3.06	3.83
Q2 到達目標・注意事項の説明	4.42	3.97	3.47	3.48	3.20	3.98
Q3 授業の進度	4.46	4.00	3.50	3.50	3.49	4.01
Q4 教員の話し方	4.46	4.03	3.50	3.53	3.50	4.02
Q5 板書・視聴覚機器	4.43	3.94	3.43	3.38	3.49	3.96
Q6 教員の説明・指導	4.44	3.96	3.45	3.36	3.34	3.98
Q7 教室の環境・設備・機材	4.47	3.96	3.45	3.52	3.63	4.00
Q8 授業は有意義だった	4.47	3.99	3.44	3.46	3.21	4.01
回答件数	2,366	2,008	1,729	246	80	6,429

## 平成23年度FD研修会報告

# 「大学教育の質を向上させるためのFDの進め方と実際」

## ～愛媛大学・山田先生をお迎えして～

平成23年12月8日に、本年度のFD研修会が大会議室で開催されました。参加者は約50名です。今年は、講師に愛媛大学の山田剛史先生(教育・学生支援機構教育企画室准教授)をお招きして、「大学教育の質を向上させるためのFDの進め方と実際」というテーマでの研修を行いました。山田先生は、シラバスや成績評価などがご専門で、一線で活躍されている若手の教育学者です。

研修会は約90分で、大別すると前半は、FDの現状と課題についての講演です。大学全入時代に突入した現在、大学が多くの課題に直面している中、教育の質を保証・向上していくことが、強く求められています。このような環境の中で、FDが重要な役割を果たす必要があることが強調されました。ひとくちにFDと言っても、さまざまな種類の方法、進め方がありますが、それらの内容や特徴についての説明があり、さらに現在愛媛大学で行われている、多様な充実したFD活動が具体的に紹介されて、大いに参考になりました。



後半はシラバス改善を基点としたFDについての内容で、グループワークも交えて、具体的なシラバスの書き方の研修でした。参加者が4～5名ずつのグループに分かれ、課題として与えられたシラバスの例題について話し合い、そのシラバスの問題点を指摘して、改良したシラバスを完成させる作業です。最初は戸惑いながらも、すぐに和気あいあいという雰囲気、各グループの議論が盛り上がり、その結果を発表します。ここでは到達目標を、学生を主語にして、評価される条件や基準を具体的に書くことが重要であることがよく理解できました。

参加者からの反応も、研修後のアンケート結果をみると「大変参考になった」「とても役に立った」などという声が大半で、大変有意義な研修会であったと思います。

## 平成23年度FD講習会報告

# 「基本統計」～福井教授による統計講座～

平成23年8月8～9日に、経営学部の福井正康教授によるFD講習会「統計講座」が、コンピュータ室(5103教室)で開催されました。

このFD講習会は、授業改善と研究への活用を目指して、毎年福井先生が取り組んでいただき、学内のみならず学外からも受講者が集まり、好評を得ています。今年度は看護学部の教員を中心とした参加者が、福井先生が開発されたソフトを利用して、熱心に受講しました。今後パソコンを利用した授業改善に役立てていただければと思います。

平成24年度にもFD講習会を企画する予定ですので、多数の方のご参加をお待ち申し上げます。



## F D 関連図書コーナー新着案内

平成23年、図書館1階の参考図書架に新設された「FD関連図書コーナー」が、今年度蔵書が新たに追加され、さらに充実しました。国内外のFDや教育に関する主要な図書を集めて、自由に閲覧、貸し出しもできるようにしていますので、ぜひご活用下さい。多数の方のご利用を、心からお待ちしております。今年度新しく入った図書の一部を、下表にご紹介します。

書名	著者名	出版社
大学 学びのことはじめ—初年次セミナーワークブック	佐藤智明, 安保克也, 矢島彰 (編)	ナカニシヤ 出版
学習経験をつくる大学授業法 (高等教育シリーズ)	L. ディー・フィンク著 土持ゲーリー法一訳	玉川大学 出版部
大学教員準備講座	夏目達也, 近田政博, 中井俊樹, 齋藤芳子	玉川大学 出版部
大学の学び 教育内容と方法 (リーディングス 日本の高等教育 第2巻)	杉谷祐美子	玉川大学 出版部
変貌する世界の大学教授職	有本章	玉川大学 出版部
なぜ、国際教養大学で人材は育つのか	中嶋嶺雄	祥伝社
大学生 学びのハンドブック [改訂版]	世界思想社編集部	世界思想社
魅力ある授業のために 2	大阪大学 大学教育実践 センター	大阪大学 出版会
教育ルネサンス 大学の實力	読売新聞 教育取材班著	中央公論 新社
アクティブラーニングでなぜ学生が成長するのか—— 経済系・工学系の全国大学調査からみえてきたこと	河合塾編著	東信堂
初年次教育でなぜ学生が成長するのか—— 全国大学調査から見えてきたこと	河合塾編著	東信堂
大学自らの総合力—理念とFDそしてSD	寺崎昌男	東信堂
大学教育のネットワークを創る—FDの明日へ	松下佳代 (編集), 京都大学高等教育研究開発 推進センター (編集)	東信堂
大学教育を科学する 学生の教育評価の国際比較	山田礼子	東信堂
一年次 (導入) 教育の日米比較	山田礼子	東信堂
ポートフォリオが日本の大学を変える—ティーチング/ ラーニング/アカデミック・ポートフォリオの活用	土持 ゲーリー法一	東信堂
学生による授業評価の現在	東北大学高等教育開発推進 センター	東北大学 出版会
大学における初年次少人数教育と「学びの転換」	東北大学高等教育開発推進 センター	東北大学 出版会
大学講義の改革—BRD方式の提案	宇田光	北大路書房
大学教育と質保証	齋藤里美, 杉山憲司	明石書店
GPA制度の研究	半田智久	大学教育 出版
学生の理解を重視する大学授業	ノエル・エントウイスル著, 山口栄一訳	玉川大学 出版部

## 平成23年度 FD推進委員会 活動記録

平成23年 5月13日	平成23年度 第1回委員会 議題 1) 平成22年度活動内容について 2) 平成23年度活動計画案 3) その他
7月9～22日	平成23年度版 学生写真台帳CDを全教員に配布 (貸与) 学生による授業アンケート調査 (前期)
8月8～9日	FD講習会「統計講座(基本統計)」 講師 経営学部 経営学科 教授 福井 正康
11月2日	平成23年度 第2回委員会 議題 1) 平成23年度FD研修会について 2) FD関連図書購入について 3) 平成23年度後期授業アンケートについて 4) その他
12月8日	平成23年度FD研修会 テーマ 「大学教育の質を向上させるための FDの進め方と実際」 講師 愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室 准教授 山田 剛史 氏
12月	FD関連図書コーナー (図書館) 蔵書追加
平成24年 1月16～30日	学生による授業アンケート調査 (後期)
1月20日	平成23年度 第3回委員会 議題 1) 第7回「私の授業発表会」について 2) FDニューズレター第8号について 3) その他
3月3～4日	第17回FDフォーラム (京都産業大学) 参加 川久保和雄、尾崎 誠
3月9日	第7回 私の授業発表会 授業発表と参観報告 福祉健康学部 福祉学科 講師 伊藤 泰三 福祉健康学部 福祉学科 講師 藤井 宏明
3月31日	FDニューズレター第8号発行

**編集後記** FDニューズレター第8号をお届けします。今年度は、福祉学科の若手の2人の先生による「私の授業発表会」や、愛媛大学から講師を迎えてのFD研修会、学生による授業アンケートなど、FD活動への取り組みが、すっかり定着してきたと考えています。至らぬことばかりで、ご期待に添えないことも多かったと思いますが、ご協力どうもありがとうございました。お礼を申し上げます。(K. K)